

## 第25回 庁舎建設検討委員会 会議録（要旨）

開催日時 平成30年3月23日（金） 15:00～16:45  
開催場所 大桑村中央公民館 第2会議室  
出席者 委員10名（早川.池口.棚秋.奥田.寺嶋.佐藤.下野.東野.勝野.松原）  
野知里総務課長.上田庁舎建設係長  
傍聴者 なし

1. 開会
2. あいさつ
3. 経過報告
  - ・ H29.6.29 庁舎建設庁内検討委員会（多目的ホールの天井高、収納について）
  - ・ H29.9.4 庁舎建設特別委員会（ ” ” ）
  - ・ H30.2.8 庁舎建設特別委員会（建設資材の調達等について）
4. 議題
  - （1）建設資材の調達等について
  - （2）その他
5. その他
6. 閉会

---

### 4. 協議事項

#### （1）建設資材の調達等について

事務局：庁舎の資材を調達するために調査を行っていた村有林の調査結果について報告いたします。今回、調査を実施した中尾沢村有林ですが、調査面積が3.4haで、調査位置図をつけてあります。箇所は調査上A箇所とB箇所になっていますが、この2つのブロックで毎木調査を実施しています。林班図を添付していますが、青い線が林道で、対象箇所は林道下になります。主な樹種はスギ、ヒノキ、サワラで、スギが1,417 m<sup>3</sup>、ヒノキが401 m<sup>3</sup>、サワラが223 m<sup>3</sup>で、主な樹種の計が2,041 m<sup>3</sup>程になります。(P1)他の樹種のもみ等を含めると、枯れ、曲り、クマ被害を除いて2,170 m<sup>3</sup>となります。(P2)、この資料は、全体の樹種ごとの本数と材積を表記してあります。P3にスギ、ヒノキ、サワラについて径別10cm刻みで材積を出してあります。

庁舎建設で使用する木材量ですが、ヒノキについては構造材、造作材を合わせて182 m<sup>3</sup>程度あります。構造材は、倉庫の柱等になります。造作材については、主に中央ホール、待合スペース、廊下、多目的ホールの腰壁や、ルーバー、梁の化粧といった箇所です。今回の調査でスギが多く出るため、フローリング材として使用する計画をしています。基本設計で、フローリングは購入ナラ材となっていますが、庁舎で使用するフローリングは土足対応とする必要があり、村有材が活用できないか検討しました。一般的にフローリングは硬い材を使用しますが、今回の庁舎建設で使用するフローリングは土足用で、さらに強度のある材料が必要となりますが、スギ材を圧縮加工する

ことで土足用フローリング材として使用が可能のため、村有林のスギをフローリング材として活用したいと考えています。スギ材も特殊加工によりナラ材の約2倍程度の硬さとなるようです。全体の木材量は約200 m<sup>3</sup>なので庁舎で使用する数量は十分、中尾沢の村有林で対応できると考えています。村有林の伐採を行い庁舎の資材として使用しない材は、上松の市売りで売却します。伐採搬出はH31年度に行い、H32年度に建設資材として使用する計画です。H30年度は、H31年度に伐採搬出するための作業道の整備を行う予定です。搬出した立木は、製品化するものと売却するものに分ける必要があります。現在、立木の選別については木曾官材市売で行い、伐採した立木をどのように製品化し材料支給として製品納入するかについて、木曾管内の製材等関係団体と協議をするなどして検討を進めているところです。

## 質疑

委員：フローリングの箇所は？

⇒フローリング箇所は、中央ホール、図書館、談話コーナー、待合スペース、多目的ホール、廊下、特別会議室、小会議室等です。

委員：フローリングのメンテナンスは？

⇒一般的なワックスがけ等のメンテナンスは必要のようです。

委員：どの程度もつのか？

⇒土足用のフローリングについては、10年経過の報告を聞いていますが、ヘコミ、剥がれ等形状変質はないとの事です。使用頻度やメンテナンスで変わってくると思います。

委員：フローリングは、暑い時期、寒い時期でも変形等しないか？

⇒特殊加工により圧縮が戻ることはないようなので変調はないようです。

委員：スギとヒノキの違いはあるのか？

⇒それぞれ木の硬さが違うので、強度を満たすために圧縮率がヒノキは50%、スギは60%圧縮して使用しているようです。大桑村にはヒノキだけでなくスギもあり、搬出予定の村有林に多くあるスギを床材で有効活用したいと考えています。

委員：特殊加工なので高くなると思うがコストも考えなければいけない。

⇒土足用にする必要があり形状が戻らないといった特殊加工になるので、材料支給としても通常のフローリングより3割程度高くなってしまわないかと現段階での試算では考えています。

委員：搬出は容易にできるのか？

⇒林道下を計画しており面積もあるので作業道を整備して搬出の予定。林道に近いところは搬出が容易にできると思います。

委員：エリアをすべて伐採するのか？

⇒伐期を迎えている林分なので森林施業の中で更新伐としてH31年の10月頃から翌年の3月頃までに伐採を行う。伐採したところは植林して更新していく計画で進めています。台帳上は伐期を迎えている林分が10ha以上あるところで、これも含めて森林整備をしていく方向で検討しています。

委員：村長室、特別会議室にヒノキを使用するのか？

⇒壁や天井に使用するようになっている。

委員：せっかく村の木を使用するので、村長室、特別会議室など、来客もありシンボリックなことも話題に出せるような使用をしてほしい。

委員：フローリングは新しく技術開発したもので、スギに付加価値をつけ有効活用して

行くことは意味がある。公共施設で使用して普及させるといったことも大切だ。

委員：見た感じでしかわからないが、滑りそうなイメージがある。

委員：高齢者や小さな子供が利用するので心配だ。

委員：圧縮材については、イメージとか感触もわからないので、使用している施設に入ってみるのがいいのではないかな？

⇒土足用のフローリングを使用している施設があるので、状況等は現地で確認できると思います。

## (2) その他（地中熱利用について）

事務局：基本設計では再生可能エネルギーの活用で、地中熱を床暖房に活用する計画としています。図書館、談話コーナー、キッズルーム、絵本コーナーへ地中熱を利用した床暖房が計画され、一般的な冷暖房についてはエアコンの空気熱によるものとなっています。現在、地中熱と太陽光の利用を考えていますが、床暖房、エアコン、パネルによる循環式の冷暖房等様々のものがあり、調査を進めて実施設計に反映させたいと考えています。

### その他（H30年度事業について）

事務局：H30年度事業は、村有林の作業道整備と整備に伴う支障木の伐採を行い、支障木伐採で木の状態も確認したいと思います。また、H31年度に取り壊しを行う旧大桑小学校校舎の石綿調査と、業務継続計画の策定を実施します。石綿調査は、事前に調査をしておかないと建物に石綿が使用されていた場合、解体時に飛散防止などの処理を行う必要があるため事前に調査を行うものです。業務継続計画は、新庁舎での災害時の業務分担などを定める計画です。これは、行政が被災し、人、物、情報等利用できる資源に制約がある状況下であっても、災害対応等の業務を適切に行うための計画です。新庁舎建設では、公共施設等適正管理推進事業債の借入を予定しており、熊本の地震以降、行政が被災し災害対応業務が遂行できなかつたことを受け、この事業債ができたという経緯もあり、業務継続計画の策定が、起債借入の条件にもなっています。また、防災拠点として機能を発揮するために、最低限稼働しなければならない機器などの必要な電気量等を調査し、蓄電容量など具体的にして実施設計に反映させたいと考えています。

### 質疑

委員：業務継続計画はいつからの計画か、今の庁舎の計画なのか？

⇒新庁舎での業務を想定した計画です。

委員：入口から中央ホール、通路、天井も高く事務室と一体の広い空間なので冷暖房が心配である。

⇒広いエリアなのでコストも含め地中熱の利用方法など、様々なシステムについて検討していく必要がある。

委員：地中熱利用で安定した供給が可能なのか調べていく必要はある。

委員：地中熱のパネル式とはどういったものか？

⇒パネル形状の物の中にあるパイプに不凍液のような液を流し、循環させることにより暖めたり冷やしたりするシステムです。

委員：床暖房などの暖房機器は、エアコンなどの送風によるものと違い、暖かさの感じ方が違う。

委員：実際に稼働している施設を見てみないとわからない。

委員：そういった施設を見学するのであれば冬期の方が良いのではないか？

事務局：今後、土足用のフローリングを使用している施設、また、地中熱を利用した施設についても箇所を選定のうえ日程を決めて視察計画をいたします。